

# スラグせっこう板標準施工仕様書（軒天）

一般財団法人  
全国木質セメント板工業会

## 1、 一般名：スラグせっこう板「化粧スラグせっこう板」

- (1) 国土交通大臣認定番号 NM-8314 「MN-8315」
- (2) 日本工業規格番号 JISA5430 繊維強化セメント板
- (3) 表面の形状：平滑又はエンボス
- (4) 寸法（厚さ：5 mm 6 mm 8 mm 10 mm 11 mm 12 mm）  
（長さ：1,820 mm）  
（幅：910 mm）
- (5) 見かけ密度（0.9～1.2）
- (6) 準耐火軒裏認定：QF045RS-0081 QF045RS-0082 QF030RS-0133 QF030RS-0134 QF030RS-0152  
QF030RS-0153 QF030RS-0195（工業会加盟社取得）

## 2、 施工上の留意点

- 常時水の掛かる部位、あるいは高温にさらされる部位等、特殊な環境下での使用は出来ません。
- 軒天板は、軒先部から氷雪・ツララ等がエンボスカラーまで廻り込む恐れがある箇所へは施工しないで下さい。
- 有孔板は、施工後に雨や雪が吹き込む箇所には施工しないで下さい。特にければ部分や片流れ屋根の頂部側には施工しないで下さい。
- 施工部材は純正品、又は推奨品を使用してください。

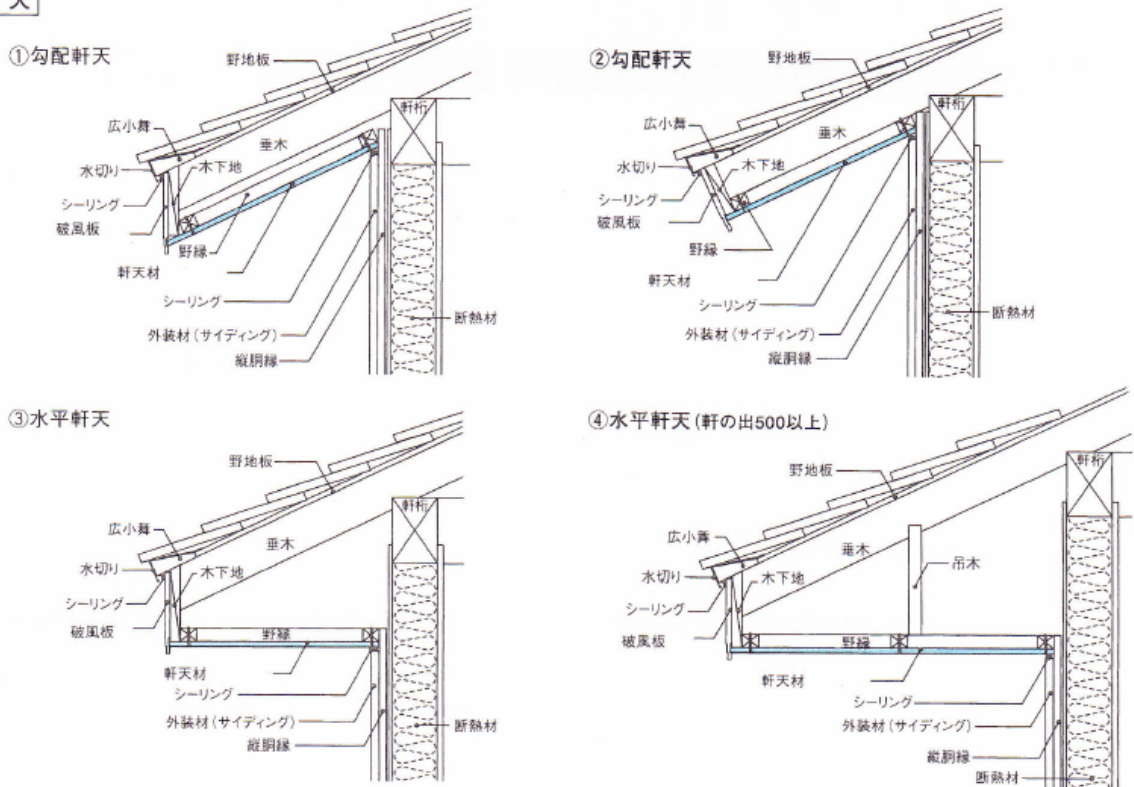
## 3、 木造下地

- 野縁の材質は、十分に乾燥した材料を使用して下さい。但し、ラワン材のように腐朽しやすく割れ易い材質の樹種を使用しますと、製品の剥落事故等を招く恐れがありますので、絶対に使用しないで下さい。
- 野縁の不陸は2 mm以内にして下さい。  
※ボルト頭や下地組の不陸・ねじれ等は仕上がりに影響するばかりで無く無理な施工から軒天材の破損を招く恐れがあります。
- 軒天板 6 mm品の場合、野縁間隔は、303 mm以下として下さい。軒天板 8 mm品以上の場合、455 mm以下にして下さい。
- 軒天板 8 mm以上の場合、野縁のサイズは 36 mm×36 mm以上にして下さい。軒の出 500 以上の場合、吊木を設けて下さい。
- 軒天板をサネ、ジョイナー接合又は、突き付け施工する場合、必ず野縁の受け材があるように割付して下さい。（目地部の受け材はダブルで使用）
- 軒天板を、ハット型目地ジョイナーで施工する場合、野縁のサイズは 30 mm×45 mm以上にするか、受け材をダブルで使用して下さい。

#### 4、 留め付け方法

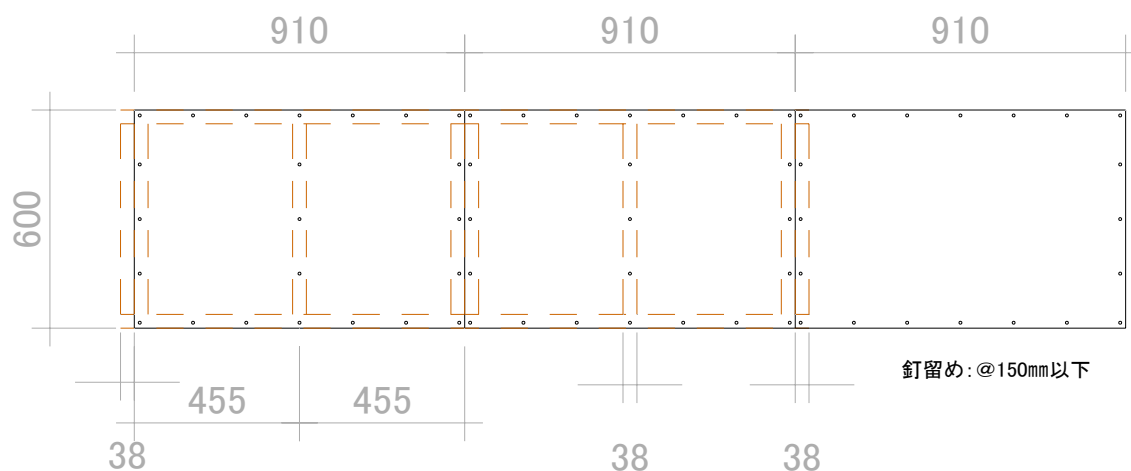
- 木造下地の場合は、専用釘又は、推奨釘を使用して下さい。
- 留め付け間隔は、下地に合わせて 150 mm以下に留め付けて下さい。
- 材端部に釘打ちすると、端割れ等の原因になります。釘の留め付けは、板端から 15 mm以上離れた箇所に行ってください。
- 自動釘打機を使用する際は、事前にコンプレッサーの圧力を調整して、空気圧の強過ぎによる釘頭の陥没の発生を避けて下さい。
- 自動釘打機での一発打ちは出来るだけ行わず、空気圧を調整し、最後の締めを手打ちで行うようにして下さい。
- 有孔板に釘打ちを行う場合は打ち位置が穴に片寄らない様にして下さい。
- フィニッシュネイル、ピンネイル、タッカー等は保持力の低下が起る可能性がありますので使用しないで下さい。

#### 軒 天



施工例（軒の出 600 mm）

■軒天：野縁のピッチ及び釘の留め付け位置



5、補修方法

- 釘頭が著しく目立つ部分等、やむを得ず補修が必要な場合は、専用の補修塗料を使用して下さい。
- 軒天板の切断木口の面取り部は、必ず補修塗料を十分に塗布して下さい。
- 補修塗料は十分に攪拌し、残材で試し塗りしてから、ご使用下さい。
- ※缶を振るだけでは攪拌はできません。目安として2分以上の攪拌が必要です。
- 補修の当日が降雨・降雪の場合、塗装しないで下さい。また、前日が降雨・降雪直後等で基材表面が濡れている場合も避けて下さい。
- 外気の温度が5℃以上の時に塗装を行って下さい。
- 1年以上保管している補修塗料は変色等の恐れがあるので使用しないで下さい。

以上